

第2章 記念式典及び祝賀会

平成27年7月11日（土）、同窓会創立60周年記念式典が行われました。琉球大学の歌「雲よ湧け千原の空に」の一斉斉唱により開会し、会長挨拶、同窓会の活動状況報告の後、大城肇琉球大学長の祝辞、翁長雄志沖縄県知事（代理 安慶田光男副知事）の祝辞、上間明西原町長の祝辞を賜りました。その後、これまで同窓会活動へ多大な貢献・協力された39名（社）の方々へ感謝状の贈呈が行われました。また、琉球大学より同窓会へこれまでの寄付活動等に対する感謝状の贈呈が行われました。

さらに、琉球大学より岸本正之氏へこれまでの国際交流と発展への貢献に対し名誉博士号の授与が行われました。最後に受賞者を代表して岸本正之氏による謝辞があり、式典は滞りなく終了しました。

記念式典に続き祝賀会が行われました。華やかな「かぎやで風」による幕開けにより始まり、会長挨拶の後、佐喜眞淳宜野湾市長の祝辞を賜り、琉大音楽科OBの「ヴォーカルアンサンブルG 4」によるコーラスに続き、沖縄県経営者協会会長の安里昌利様による乾杯の音頭で祝賀会を盛り上げていただきました。また、4月21日に開催しました「60周年記念チャリティゴルフコンペ」の表彰式が行われ、優勝者には日本航空より「沖縄・東京往復航空券」の賞品が授与され、その他ベストグロス賞、女子上位者等への賞品授与が行われました。懇談をはさんで琉舞「貫花」の披露、弦楽五重奏による合奏があり、最後に参加者全員で「琉大逍遙歌」を斉唱し、1時間半にわたる祝賀会を終えました。



式 辞



琉球大学同窓会

会 長 幸 喜 徳 子

本日ここに大城肇琉球大学学長はじめ多数のご来賓ご臨席のもと、琉球大学同窓会創立60周年記念式典を挙行することができ、同窓会にとりまして大きな喜びとするところでございます。

皆様には日頃より本同窓会に対し、深いご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当会は1954年12月に第1期・2期の卒業生、148人により創立され2014年12月に創立60周年を迎えました。現在、7万6千人余の会員を擁するまでになっております。

これもひとえに先輩諸氏及び会活動をご支援下さいました皆様のご尽力の賜物と心より敬意と謝意を表します。

支部は関東、関西、九州・山口、奄美、久米島、宮古、八重山の7支部があり、それぞれ地域の特色を生かした活動を行っております。その他、学科同窓会も活発に行われております。

同窓生は県内及び本土、海外においてあらゆる分野で著しい活躍をしておられ嬉しい限りでございます。

本日は遠路米国ニューヨークやロサンゼルス、本土各地、県内離島からも同窓生がご参加下さり誠に有難うございます。

今年は同窓会創立60周年記念事業として、「過去から未来へのかけはし」をテーマに芸術祭、チャリティゴルフコンペ等も開催致し、盛会裏に終了致しました。

さらにグローバルな慈善事業をしておられる琉球大学英文科5期ご卒業の岸本正之様の顕彰碑建立も無事、除幕式を終えたところでございます。

諸事業にご協力頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。

先ほどは、はるばるロサンゼルスからおいで下さいました岸本正之様より素晴らしいご講演を賜り、まさに創立60周年に華を添えて頂きました。

本日はこの席で大学の特別なお計らいにより、岸本様への名誉博士号授与も行われる予定です。ご本人はもとより同窓会にとりましてこの上ない喜びでございます。

本会の主な活動をご紹介しますと、会員の親睦交流、大学への寄付金贈呈を通した学生の課外活動支援、後輩の就職支援の一環として、教員採用試験対策講座の無償開講、社会貢献活動はシンポジウムや、パネルディスカッション、講演会の無償一般公開、会報誌発行、支部活動支援および他大学同窓会との交流等がございます。

有難いことに大城学長は日頃より、「同窓会と大学は車の両輪」と深いご理解を賜り私共の励み

になっております。

同窓会はこれからも会員の融和を図り魅力ある活動を継続することにより過去から現在、そして未来へと繋いで参る所存でございます。今後とも皆様のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに皆様のますますのご健勝とご活躍、併せて琉球大学の更なるご発展を祈念しあいさつと致します。

2015年7月11日

祝 辞



琉球大学

学長 大 城 肇

琉球大学同窓会の創立60周年の佳節を寿ぎ、心からお祝いを申し上げます。1954年12月の設立以来、初代の和気政雄会長から現在の幸喜徳子会長まで、歴代の会長様及び副会長様、事務局長様、各支部の役員の皆様、並びに会員・卒業生の皆様の献身的な活動と母校を思うお気持ちがあって、60年という重みのある輝かしい歴史を刻んできた今日の琉大同窓会が存在すると確信いたしております。改めて、関係の皆様方に心からの祝意とお礼を申し上げます。

琉球大学同窓会は、これまで毎年、学生の課外活動支援金として多額のご寄付をさせていただいたり、教員候補者選考試験対策講座を開講していただくなど、後輩の育成に大きなお力添えを頂戴しております。また、開学50周年や60周年の節目の際には、記念事業へ多額のご寄付をいただきました。これまでの琉大同窓会の本学に対する物心両面にわたる多大なるご支援に対し、厚く感謝を申し上げます。

琉球大学は、65年前の1950年5月22日に開学いたしました。戦後、荒廃した沖縄の復興に必要なのは人づくりであるという考えから、「この沖縄の地に高等教育を」という地域の人々や海外の県系人の熱望によって、本学は設立されました。この経緯は、他の国立大学にない特徴的なものであり、それを基点として草創期からこれまで「ランド・グラント・ユニバーシティ」、すなわち、地域に貢献する大学としての使命を果たすべく、人材育成はもちろんのこと、教育・研究の成果を地域社会に還元し、多様な社会経済・文化の発展に寄与するために、地域と連携して取り組んで参りました。

1951年度から2014年度までの本学の学部、短期大学部、大学院、専攻科の正規課程及び短期課程を卒業・修了した学生の総数は、76,423人に上ります。7万6千人を超える本学の卒業生・修了生は、県内はもちろん、国内及び世界の各界各層で活躍いたしております。同窓生の皆様は本学の宝であり、それぞれの地域社会・国際社会でのご活躍は、母校や後輩にとってたいへん大きな誇りであります。

今後とも、琉球大学は、沖縄県唯一の総合大学として、ランド・グラント・ユニバーシティの理念のもと、地域との共生・協働によって、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指すとともに、本学の強みを発揮し、新しい学術領域である熱帯島嶼・海洋・医学研究の国際拠点として「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」を目指して進んで参ります。

本学はこれまで以上に、国際的に活躍できるイノベティブな人材を地域社会及び国際社会に輩

出するとともに、学び直しの機会を拡充して地域社会で活躍しリードする人材の強化や高度化にも尽力して参ります。本学の同窓生が、行政、産業界、教育界、医療界、法曹界などと連携して、多様な社会経済と文化の発展に寄与する活動を行い、アジア・太平洋域における「知の津梁（学知の架け橋）」としての役割を存分に発揮する有為なグローバル人材として、豊かな地域社会を創りあげていく。それこそが、同窓会の皆様と本学がともに希求する願いであり、果たさなければならない責務であると認識いたしております。

そもそも同窓会は、〔大学—同窓—個人〕が三位一体となって学舎を共有していることが中心核として支配している概念です。今年度も11月14日にホームカミングデーを企画いたします。会場で多くの卒業生の皆様と再会できることを心待ちいたしております。

同窓会は、過去を共有するだけでなく、未来も共有するものであってほしいと願っています。琉球大学の創立百周年は2050年です。創立百周年の輝かしい未来へ向かって、同窓生皆々様の益々のご健勝とご多幸、並びに琉球大学同窓会の限りないご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。本日は誠におめでとうございます。

2015年7月11日

祝 辞



沖縄県知事

翁 長 雄 志

はいさい、ぐすーよー、ちゅううがなびら。

琉球大学同窓会が創立60周年を迎え、記念式典が举行されますことを心からお喜び申し上げます。

琉球大学は、昭和25年に琉球政府立大学として開学して以来、沖縄県の復帰に伴い国立大学へ移行し、首里キャンパスから現在の西原キャンパスへの移転、国立大学法人への移行など、様々な変遷の中、本県の高等教育をリードする大学として、沖縄の振興・発展に多大な成果を上げてくれました。また、これまで多くの卒業生を輩出され、卒業生の皆様は、政界や経済界をはじめ、行政、教育、医療などのあらゆる分野で活躍しておられます。

このような中、琉球大学同窓会におかれましては、昭和29年の発足以来、学生の課外活動や就職活動に対する支援、会員相互の交流・連携強化などに取り組まれ、皆様の母校、琉球大学の発展に大きく寄与してされました。現在では、7万5千名余りもの会員が交流を深めながら、母校の支援に取り組んでいらっしゃる伺っており、幸喜徳子会長をはじめ、同窓会活動の充実にご尽力された歴代の役員や関係者の皆様に深く敬意を表します。

沖縄県では、沖縄21世紀ビジョン基本計画において、「多様な能力を発揮し、未来を拓く島」の実現に向けて、「沖縄らしい個性を持った人づくりの推進」に取り組んでいるところであります。琉球大学におかれましても、引き続き、沖縄の将来を担う人材の育成に貢献していただけるものと御期待しており、同窓会にも御協力賜りますようお願いいたします。

結びに、琉球大学同窓会並びに琉球大学のますますの御発展と、お集まりの皆様の御活躍・御健勝を心から祈念申し上げて、お祝いの言葉といたします。

2015年7月11日

祝 辞



宜野湾市長

佐喜眞 淳

盛夏の候、皆様におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

本日、ここに「琉球大学同窓会創立60周年記念式典・祝賀会」が盛大に開催されるにあたりお祝いの言葉を申し上げます。

貴大学は、1950年（昭和25年）に首里城跡地に開学されて以降、拠点を本市のすぐ隣りに位置します現在の西原町千原に移されてから、約65年もの歳月が流れております。この間、毎年多くの学生を育成し、様々な分野において県内外をはじめ、国際的にもご活躍される優秀な人材を送り出されるなど、貴大学の掲げる国際社会の発展に寄与できる人材像の育成に大きく貢献されましたことに、深く敬意を表するものであります。

さて、本日の同窓会は、創立60周年という節目ということもあり、今年2月以降記念芸術祭などの記念事業を通し、多くの同窓生や関係者の皆様が親睦を深められていることと存じます。

「朋あり遠方より来る、また楽しからずや」の一節にもありますように、縁あって同じ志を持ったもの同士、苦楽を共にし、将来について語り合った旧友との久方ぶりの再会の喜びをわかち合われ、今後の人生が益々充実されることを願ってやみません。

結びに、琉球大学同窓会設立60周年の記念式典・祝賀会開催に辺り、貴大学及び同窓会の、ますますのご発展と、ご臨席の皆様並びに関係者の皆様のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げまして私の祝辞といたします。本日は誠にありがとうございます。

2015年7月11日

祝 辞



西原町長
上 間 明

本日、来賓並びに関係各位の出席の下、琉球大学同窓会創立60周年記念式典・祝賀会が挙行されますことは誠に喜ばしく、琉球大学が立地する地元西原町を代表し、心からお祝い申し上げます。

1950年に首里の地に開学した琉球大学は、当時の沖縄県民にとって戦後復興に向けての大きな希望でありました。その後、祖国復帰に伴う国立大学への移管、西原町への移転、国立大学法人への移行等、幾多の変遷がありながらも終始一貫してその崇高な理念を堅持し、地域特性と国際性ある学風を樹立されました。そして、今日まで多くの卒業生が様々な分野で活躍し、郷土の発展に大きく貢献されております。

貴同窓会におかれましては、1954年12月に設立以降、会員相互の親睦と母校「琉球大学」の発展を願い、支部活動の支援や学部・学科同窓会との交流・連携強化、前途ある学生の支援に取り組むなど、その活動は誠に素晴らしいものがあります。現在では、7万5千人余の会員を有し、県内外に支部を設けるまでに発展し、本日、記念すべき60周年という大きな節目を迎えられたことは、誠にご同慶の至りであります。このように、貴同窓会が母校と共に着実に発展されましたのも、偏に歴代会長をはじめ、役員並びに会員各位の限りない情熱と努力の賜物であり、ここに衷心より敬意を表する次第であります。

本町におきましては昨年度に、琉球大学・西原町・西原町商工会の三者において、まちづくりや地域産業の振興、学術研究の振興を図るため包括連携協定を締結いたしました。今後、様々な分野で密接な連携・協力を図って参りますので、引き続き皆様方のお力添えを賜りますようお願いを申し上げます。

我が国をめぐる内外の社会・経済情勢は激動し、高度情報化、少子高齢化、地方分権等といった時代の潮流の中、今後も琉球大学が21世紀の国際社会で活躍する人材養成に向けて、益々邁進されんことを期待すると共に、貴同窓会が創立60周年を機に、幸喜徳子会長をはじめ、関係各位の尚一層のご尽力により、さらなる飛躍・発展されますよう祈念申し上げ祝辞といたします。

2015年7月11日

感謝状被表彰者

協賛広告企業

1. 株式会社EM研究機構
代表取締役社長 安里勝之
2. オキコ株式会社
代表取締役社長 仲田龍男
3. 株式会社沖縄海邦銀行
代表取締役頭取 上地英由
4. 株式会社沖縄銀行
代表取締役頭取 玉城義昭
5. 沖縄電力株式会社
代表取締役社長 大嶺 満
6. オリオンビール株式会社
代表取締役社長 嘉手苺義男
7. 株式会社久米島の久米仙
代表取締役社長 島袋正也
8. 株式会社サラト
代表取締役社長 福田裕一
9. 首里城下町クリニック
院長 田名 毅
10. 新星出版株式会社
代表取締役社長 神谷俊明
11. 新中糖産業株式会社
代表取締役社長 福里重盛
12. 株式会社琉球銀行
代表取締役頭取 金城棟啓
13. 琉球大学生生活協同組合
専務理事 藤原博徳

功労者（個人）

14. 安里 昌利
15. 稲嶺 恵一
16. 上地 英由
17. 大城 勇夫
18. 大城 浩
19. 佐久眞 章
20. 下地 清吉
21. 高安 正勝
22. 渡口 彦則
23. 富田 詢一
24. 長元 朝浩
25. 山内 光子
26. 岸本ファミリー基金 代表 岸本 正之
27. 岸本ファミリー基金 代表 岸本多摩子
28. 比嘉 正幸
29. 赤嶺 健治
30. 津留 健二
31. 興儀 憲徳
32. 当山 尚幸
33. 岸本 一夫
34. 前川 朝文
35. 島袋 君子
36. 琉球大学同窓会 関東支部長 高山厚子
37. 琉球大学同窓会 九州・山口支部長 照屋常信
38. 琉球大学同窓会 奄美支部長 山田和憲
39. 琉球大学同窓会 久米島支部長 儀間周倫

（＊敬称略）

記念式典及び祝賀会の写真



琉球大学の歌斉唱



幸喜徳子会長の挨拶



大城肇琉球大学長の祝辞



照屋寛八副会長による開式のことは



儀保博信副会長による同窓会活動状況報告



沖縄県知事（安慶田光男副知事代読）の祝辞



上間明西原町長の祝辞



同窓会役員



出席者



感謝状被表彰者



功労者への感謝状授与



感謝状被表彰者



功労者への感謝状授与



琉球大学より同窓会への感謝状授与



岸本正之氏への名誉博士号授与



幸喜徳子会長の挨拶



佐喜眞淳宜野湾市長の祝辞



「かぎやで風」による祝賀会幕開け



司会：前泊美紀



余興「ヴォーカルアンサンブルG 4」



岸本正之氏の挨拶



安里昌利沖縄県経営者協会長の乾杯の挨拶



乾杯！



大城肇琉球大学長の挨拶



出席者



余興「弦楽五重奏」



弦楽伴奏による琉大逍遙歌斉唱



幸喜会長を囲んで



嘉手苺喜郎副会長による閉会のことば



岸本正之夫妻を囲んで

関係者所感

60周年記念事業に携わって



同窓会事務局長
山 里 将 順
24期 法文学部法政学科

1. 芸術祭等事前準備及び引き継ぎ

平成26年12月に琉球大学同窓会は創立60周年を迎えたが、栄えある60周年の記念事業は年の明けた平成27年に行うこととなった。その第一弾が2月11日（祝）に行われた「芸術祭」であるが、芸術祭等記念事業の準備は、平成26年2月25日の第1回実行委員会開催及び各部会第1回会合から始まった。その後、各部会が何回か開催されたが、6月13日の芸術祭出演者に対する名簿作成依頼、6月24日の評議員会及び7月5日の定期総会における記念事業計画の決定、11月12日の三役会及び実行委員会でのチラシ・チケットのデザイン決定、11月28日の芸術祭出演者・部会代表者会議における芸術祭の概要の決定が行われた。

これらの記念事業の開催準備が進められている中、平成26年12月1日に私は前任の比嘉忠信事務局長から業務を引き継いだ。引き継ぐと同時に「芸術祭」開催に向けての作業に取り組むとともに、4月21日開催予定の「チャリティゴルフコンペ」の準備にも取り掛かった。着任当日には早速、幸喜会長とともに、(株)りゅうせきの稲嶺恵一参与（元沖縄県知事）に「チャリティゴルフコンペ」特別顧問の就任要請にうかがったほか、沖縄県経営者協会の安里昌利会長（沖縄銀行会長）へゴルフコンペ実行委員長の就任要請や名桜大学の比嘉良雄理事長への顧問就任要請及び県内大手企業のトップの方々にゴルフコンペの実行委員の推薦依頼にうかがった。いずれの企業の方々にもご協力のご快諾をいただいたことは嬉しい限りであった。

2. 芸術祭の開催

それと並行して、開催が差し迫った「芸術祭」に向けて出演者への依頼書の作成・発出、チケット販売の依頼、舞台監督や出演者との打ち合わせ、チラシ及びプログラムの作成等を短期間でやらなければならない、休む暇もなく多忙を極めた。

また、照屋寛八芸術部会長及び上地和夫副部会長とともに、てだこホールスタッフとの打ち合わせ、司会をお願いした大城明美さんとの打ち合わせなど短期間に事前調整を行わなければならな

かった。さらに、出演者との稽古場へ出向いての舞台上の段取り調整や芸術祭前日のリハーサルと事前準備は慌ただしいものであった。

しかし、芸術祭は西洋音楽、邦楽、琉球芸能の3部門に同窓生延べ330人余が参加し、そうそうたるメンバーによる珠玉の演奏が披露され、会場を埋め尽くした約800名の聴衆を魅了した。当日は、評議員等の役員をはじめ、琉大音楽科同窓会、在学生、琉大吹奏楽部員等の協力により舞台進行もスムーズに行われ、芸術祭が好評を博し成功裏に終わったことは嬉しいことであった。出演者と裏方で支えた方々の連携と協力がなければなしえなかったイベントであり、心から感謝申し上げたい。

3. チャリティゴルフコンペの開催

芸術祭が終わると、すぐチャリティゴルフコンペの準備であった。1月15日に第1回チャリティゴルフコンペ実行委員会が開催され、おおまかな企画は決まったが、具体的な準備作業は芸術祭後から始まった。2月19日ゴルフコンペ参加者募集、2月23日参加申込開始、2月24日賞品寄贈依頼開始、3月19日賞品受け取り開始とこちらも短期間での慌ただしい作業となった。4月7日に第2回実行委員会が開催され、準備状況の確認を行った。賞品寄贈も70社から約350点が集まり、4月19日に賞品を琉球ゴルフ倶楽部へ搬入し、4月21日にいよいよ本番を迎えた。

当日は少し肌寒さを感じる気温であったが、雨もなく絶好のゴルフ日和であった。稲嶺恵一特別顧問の始球式で午前7時にスタートしたコンペは83組、321人のプレーヤーが午前の部、午後の部に分かれて腕を競った。同窓会役員その他、実行委員を出していただいた企業や沖縄県経営者協会及び琉大ゴルフ部の方々にスタッフとして応援していただき、ほぼ時間どおりスムーズにコンペを行うことができた。あらためて実行委員のメンバーやスタッフの方々に感謝申し上げたい。

4. 岸本正之氏顕彰碑除幕式

ゴルフコンペが終わると、すぐ7月に向けての岸本正之氏顕彰碑建立及び定期総会・60周年記念講演・式典・祝賀会の準備に取り掛かった。岸本正之氏顕彰碑の石碑探しは幸喜会長が前年から石材業者をまわって選定にとりかかっていたが、私が関わったのは3月頃からで、幸喜会長、照屋副会長と同行した。石材業者廻りの結果、石碑を決めたのは5月に入ってからであった。その後選定業者と碑文刻印の調整を行い、7月9日の顕彰碑除幕式までに無事石碑を建立することができた。除幕式当日は台風接近で開催が危ぶまれたものの、強風が吹く中、岸本氏ご夫妻及び大城学長はじめ多くの来賓の方々に参列していただき滞りなく除幕式が挙行され、無事終えることができた。

5. 記念講演・記念式典・祝賀会

翌10日は台風9号到来で大荒れであったが、60周年記念講演・式典・祝賀会が行われる11日は台

風も去り、支部長会、定期総会とともに記念事業も無事挙行することができた。ただ、台風の影響でいくつかの支部で支部長や事務局長が出席できなかったり、式典に間に合わなかったりしたことは残念であった。

記念講演・記念式典・祝賀会には来賓、大学関係者、同窓生約200人が出席した。岸本正之氏の長年にわたる発展途上国での慈善活動等の経験をもとにした「地球社会の明日を読む」とのテーマの講演の後、記念式典に移り幸喜同窓会長の式辞、大城琉大学長、翁長沖縄県知事（安慶田副知事代読）、上間西原町長の祝辞があり、功労者への感謝状の授与、琉大から同窓会への感謝状の授与、琉大から岸本正之氏への名誉博士号の授与などがあった。引き続き、祝賀会に移り佐喜眞宜野湾市長の祝辞や安里昌利沖縄県経営者協会長の乾杯に続き諸々の余興が披露されたほか、チャリティゴルフコンペの表彰式も行い、盛大な祝賀会が催された。

6. 記念事業を終えて

着任早々から記念事業の準備に忙殺されたが、芸術祭、チャリティゴルフコンペ、顕彰碑建立、記念講演・式典・祝賀会と一連の記念事業をまがりなりにも無事終えることができ、事務局長としての職務を果たすことができたのは嬉しい限りである。と同時に、一連の記念事業でご協力、ご支援をいただいた方々、企業・団体にあらためて心より感謝の意を表したい。